特集

トップインタビュー

自然と共生し 安心して住みよい 村づくり

TOP Interview

大和村長 伊集院 幼

奄美大島の西海岸の真ん中に位置し、薩摩と琉球の影響を受けた独特の伝統文化が色濃く残る大和村。豊かな生態系と自然に囲まれており、世界自然遺産にも登録された。人口およそ1400人の小さな村だが、どのような村づくりに取り組んでおられるのだろうか。伊集院幼村長に、健康に暮らせる村づくりへのビジョンやご自身の健康法等について、お話を伺った。

住み慣れた場所で安心して心豊かに暮らせる大和村

―大和村における健康に暮らせる村づくりへのビジョンについてお聞かせください

本村においては、「自然と共生し安心して住みよい村づくり」を基本理念とし、「住み慣れた場所で安心して心豊かに暮らせる」ことを目指しながら健康づくりを含めた各種取り組みを推進しておりますが、その中でもやはり村民が安心して暮らせるための大きな要素の1つは、身近に医療機関があることです。本村の医療機関は国保診療所1か所のみであり、これまで医師確保には常に苦労しておりましたが、現在では、緊急時対応や休日におけるコロナ外来、訪問診療訪問看護など、村民へ寄り添った医療体制が出来ております。また、村内には、直営の特別養護老人ホームもあり、医療とも連携しながら介護支援体制の整備を図り、村民の安全・安心の確保に努めているところです。

大和村唯一の医療機関「大和診療所」

村民にとって、近くに医療機関があるということは大きな安心感を生み出します。行きやすい医療機関には相談もしやすい、それこそが特定健診の受診率の向上、ひいては病気の早期発見、早期治療に繋がっていくと考えています。

しかしながら、本村において課題となっているのは特定健診受診率の低迷です。これまで、村民が受診しやすいような工夫として健診無料化や各集落での巡回、休日健診等を行い、いくらか受診率向上にはつながったものの、未だ目標を達成できていない状況にあるところです。そのため今後は診療所をはじめとする各医療機関との連携における情報提供の徹底や、若い世代への声かけ勧奨など、今まで以上に工夫を行い、改善を図りながら特定健診受診率の向上による健康づくり支援と医療費の削減にも努めていきたいと思います。

また、村民が笑顔で生活を送れるためには、心身ともに健康であることに加え、安心できる住まい環境も重要であると思います。大和村では、「高齢になると施設のお世話になるしかない」という不安を抱えて過ごすのではなく、「高齢になっても障害があっても生まれ育った地域で安心して最後まで楽しく生活ができる」ための住まい環境づくりを目指し、空き家の活用も含めた集落長屋構想も計画しているところです。さらに令和5年4月からは、新たに福祉事務所も開設する予定となっておりますので、これからも村民の福祉の向上を第一に様々な取り組みを進めていきたいと思います。

―力を入れておられる取り組みや、特色のある取り組みについてお聞かせください

村民の健康づくりの一環として、隣の奄美市にある海水を利用した健康施設「タラソ奄美の竜宮」への利用料助成を行っております。海水プールでの運動は体への負荷が少ないながらも全身への効果が高い運動ですので、運動をする機会のない方への意識づけや、足腰の弱い方でも継続的に続けられる機会として平成20年度から利用料助成を始めました。好評を頂いており長期間継続されているリピーターも多いのですが、まだ利用したことのない方への声かけや、健康チェックなども行いさらに利用促進を図っていきたいと思います。また、健康づくり教室を卒業した高齢者の方には自ら指導者となり、集落で気軽に楽しめる運動やサロンを展開している方々もおられます。そういった方々とも連携協力をしながら健康づくり活動を推進していきたいところです。さらに、特に男性の早世が課題となっている現状から、若い世代の健康活動への継続支援として、スマートフォンを使った独自のポイント付与等も計画しているところです。

健康づくりサロン

その他の施策として、本村では制度のはざ間にある方々も困ることがないよう、手すりなどの住宅改修助成や介護を行う家族への手当てをはじめ、子育て支援策としての保育所（全員）無料化や育児助成金、第3子への50万円の出産祝金、新築助成金など、経済的にも手厚い独自の施策を多数行っておりますので、高齢者だけでなく、子育て世代にとっても大変過ごしやすい村であると思います。また、交通の利便性を高めるための移動支援策として、令和5年6月から村内巡回バスを運行する予定です。集落内をきめ細かく運行することで、自宅に近い場所から乗車することが可能となるため、特に高齢者や障害者にとっても利用しやすいように計画しています。小さい村だからこそできることを考え、地域にあった施策をこれからもすすめてまいりたいと思います。

水泳選手として生涯現役

―村長ご自身の健康について、普段から心がけていらっしゃることがありましたらお聞かせください

運動をするという目標を立てましたが、仕事を理由に実行できませんでした。一昨年は、厚生連からの健

昨年の初泳ぎの様子

湯湾岳からの山々

康チェックを受けアドバイスをいただきましたが、生活改善出来ずに終わった反省から、再度、「自身で出来ることから」との思いで、不定期ではありますが、ウォーキングを心がけております。

また、小学4年生から高校生まで水泳をしていた経験があり、一昨年から水泳選手として現役復帰を果たしました。生涯現役を貫くと公言した以上、自分に活を入れ、大会にも出場することで日頃からの練習の機会を増やしたいと思っております。

お正月に行う初泳ぎは、昭和62年から行っている恒例イベントで、今年も参加しました。自ら運動を続けることで、村民の皆様の健康づくりのきっかけになればと思っています。

―最後に何か大和村のPRがございましたらお聞かせください

本村は、自然が豊かであることと、人と人との関係が近いことが特徴です。私たちが日頃から接している自然や動植物などは、日常の中に当たり前にあるものとしてあまり意識もせず過ごしていましたが、令和3年7月に「奄美大島・徳之島・沖縄島北部・西表島」の世界自然遺産に登録が決定されたことで世界から注目される島になったことは、誇りとするものであります。

本村にある宮古崎という観光地は、5年前に大河ドラマ「西郷どん」のロケ地となった素晴らしいロケーションの場所でありますが、昨年「宮古崎トンネル」が開通しさらに交通の利便性が高まったこともあり、いまだ多くの観光客に訪れていただいており、駐車場は常にレンタカーで埋まっています。また民間事業者による海釣りや、郷土料理作り、草木染めなどの体験型観光も大変人気となっておりますが、果樹の村である本村では作物の収穫時期にあわせ、「冬はたんかん・しいたけ」「夏はすもも」の収穫体験などを盛り込んだ新たな体験型観光もすすめております。果樹の中でも特に本村のすももは皇室献上の栄誉を賜っており、すももを使ったソフトクリームは、さわやかな甘酸っぱさが特徴で、大和村でしか味わうことができない大人気商品となっています。

すももを使ったソフトクリーム

すもも狩り

また今年度は、海が見える場所に、奄美で初めての温泉施設とグランピング施設が完成予定であります。観光客だけではなく村民の方々にもその温泉を楽しんでいただき、心身共にリフレッシュしながら健康になっていただけるよう計画しています。さらに、次年度以降、アマミノクロウサギ研究飼育施設（仮称）もオープン予定であるなど、新たな大和村の魅力を創出するプロジェクトも目白押しです。素晴らしい大和村の自然や人々の様子が伝わる動画「すなおにキビキビ体操」もＹｏｕＴｕｂｅで配信中ですのでどうぞご覧ください。

今年は奄美群島が日本復帰70周年を迎える記念の年となります。奄美群島でも各種催しが予定されておりますが、美味しい食べ物と自然や人の魅力あふれる「小さくとも光輝き続ける大和村」へ、ぜひ多くの方々にお越し頂きたいと思っております。

すなおにキビキビ体操